

2027
共通テスト
直前対策問題集

第2回

第2回

地理総合，地理探究

100点／60分

第2問 高校生のサナエさんたちは、宮崎県日南市^{にちなん}の地域調査を行うことにした。

この地域調査に関する次の問い(問1～4)に答えよ。(配点 12)

問1 日南市は、1950年に4町村の合併により成立し、その後、周辺町村と合併を重ね、2009年に現在の市域となった。サナエさんたちは、日南市の合併前の様子を知りたいと考え、新旧の地形図を入手し、読図することにした。次の図1は、1932年と2004年発行の同じ範囲の5万分の1地形図(原寸、一部改変)である。図1から読み取れることを述べた文として適当でないものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 5

1932年



2004年

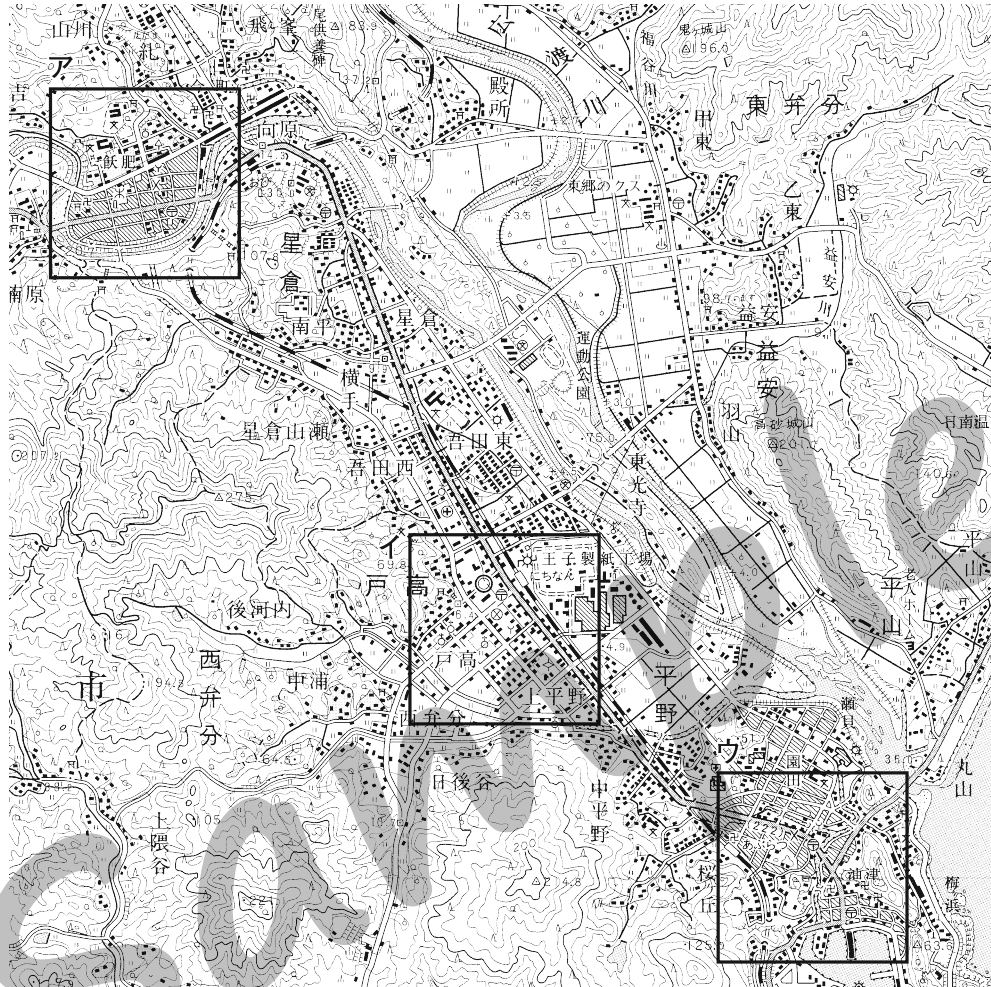
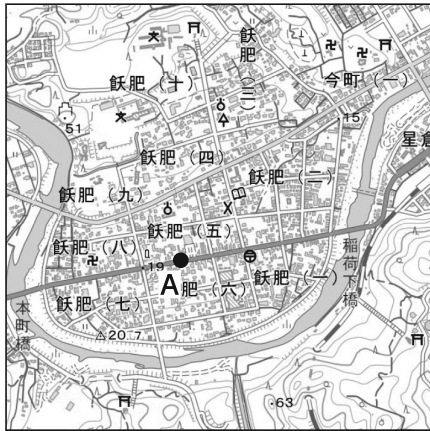


図1

- ① 広渡川(廣渡川)沿いには、かつて桑畑があったが、現在は主に果樹園になっている。
- ② 東光寺付近の広渡川(廣渡川)には、かつては川沿いに竹林(笹地)があったが、現在は土堤になっている。
- ③ かつて水田であった広渡川左岸の河岸段丘面に、王子製紙工場が建設された。
- ④ かつて飲肥と油津とを結んでいた宮崎縣営鉄道の路線の一部は、現在のJR線となっている。

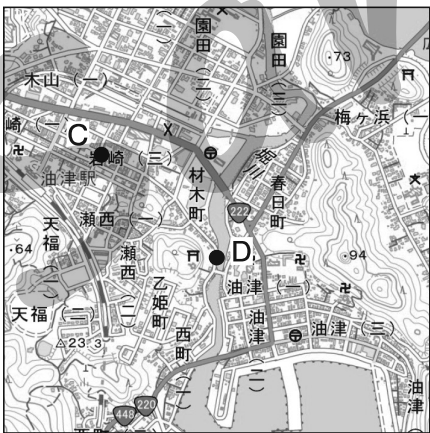
問2 サナエさんたちは、レポートに写真を添えるため、日南市の各地区で写真を撮影した。次の図2中のア～ウは、図1中のア～ウの範囲の地理院地図図であり、後の写真1中の①～④は、図2中のア～ウ中のA～Dのいずれかの地点で撮影したものである。A地点で撮影した写真として最も適当なものを、写真1中の①～④のうちから一つ選べ。 6



ア



イ



ウ



地理院地図により作成。

図2



①



②



③



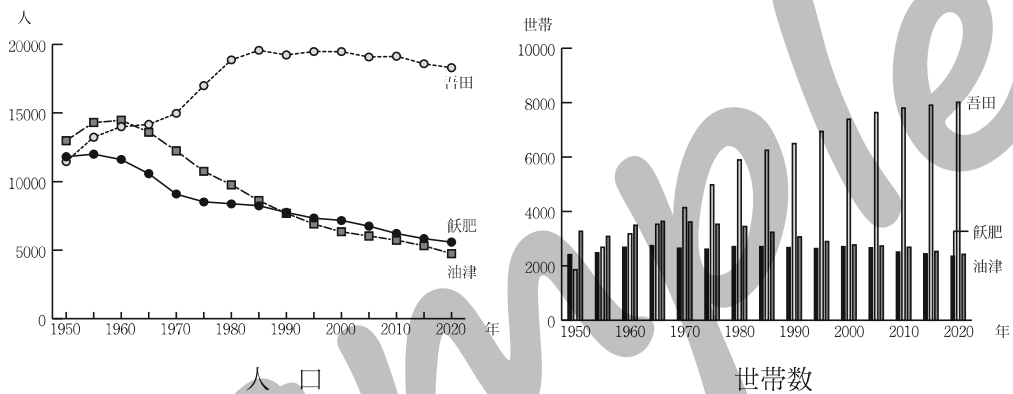
④

写真1

sample

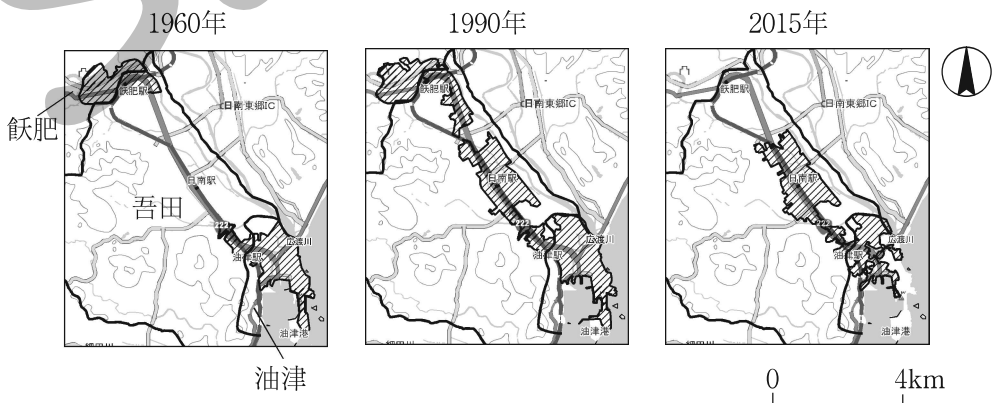
問3 サナエさんたちは、1950年に合併した4町村のうち、^{あがた}吾田、^{あぶらつ}油津、^{おび}飢肥の3地区の合併後の人口の推移を調べ、グラフで示すとともに、GISを用いて日南市の人口集中地区*の変遷についても地図で示すことにした。次の図3は、吾田、油津、飢肥の3地区の合併後の人口と世帯数の推移を示したものであり、図4は、これらの地区を含む日南市中心部の人口集中地区の変遷を示したものである。図3と図4についてサナエさんたちが話し合った会話文中の下線部①～④のうちから、**適当でないものを一つ選べ。** 7

*国勢調査の基本単位区において、人口密度が4000人/km²以上の地区が隣接し、かつそれらの隣接した地域の人口が5000人以上を有する地域を指す。



日南市統計書により作成。

図3

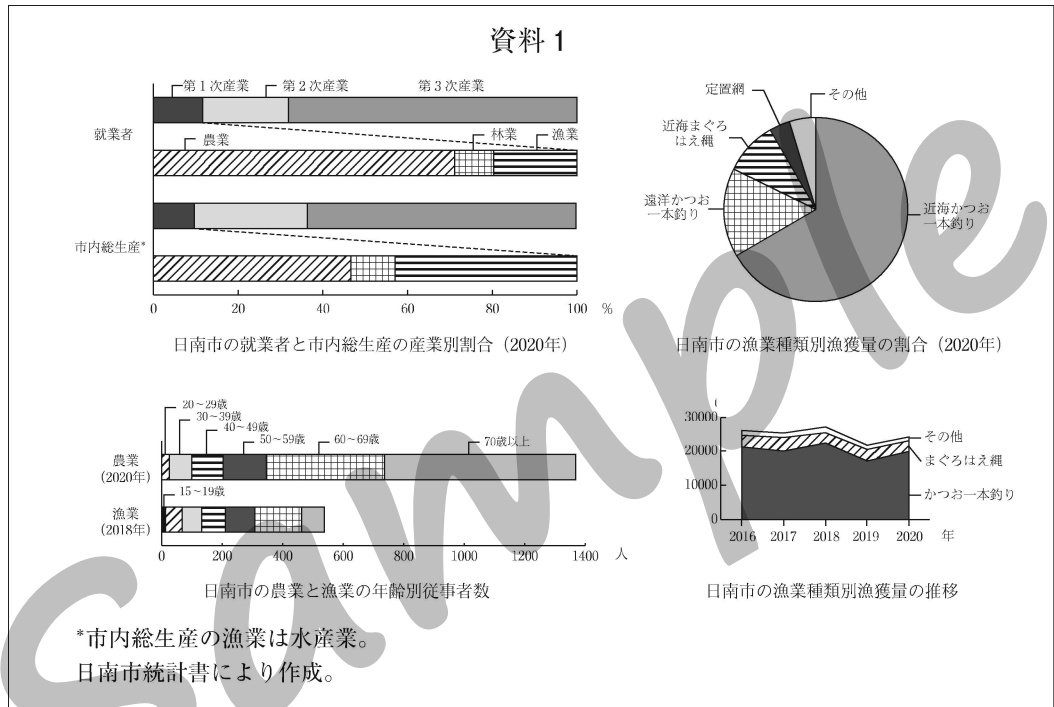


斜線部が人口集中地区。太い実線は各地区の境界。
国土数値情報などにより作成。

図4

- サナエ 「文献で調べたんだけど、飢肥は江戸時代の飢肥藩の城下町、油津はその外港で、明治以降も飢肥は行政の中心、油津は物流の中心として発展していたそうよ」
- カンタ 「そこで飢肥と油津、および両地区の間にある吾田と東郷^{とうごう}が合併して旧日南市ができたんだ。市役所は吾田に立地し、県や国の出先機関も一部は飢肥から吾田に移ったそうだよ」
- ユウカ 「合併後の3地区のうち、吾田は1970年以降の人口増加が著しく、①2020年では飢肥と油津の合計よりも人口が多いね」
- リュウ 「吾田には、中心部の日南駅を中心に、新しく人口集中地区となったところがあるね。それに加えて、②主要道路沿いに油津と飢肥から延びてきた人口集中地区もあるよ」
- サナエ 「飢肥と油津は、ともに人口減少が著しいね。また、2015年には、飢肥では人口集中地区が消失したけど、油津では残っているね」
- カンタ 「それは、③1990年以降の油津の人口減少の割合が飢肥よりも小さいからだと思うよ」
- ユウカ 「世帯数の減少は、油津よりも飢肥はゆるやかだね」
- リュウ 「飢肥では、人口減少の要因として、④世帯ごと他地域に移動したことよりも、世帯の中で若年層だけが流出したことや少子化の影響が大きいということだね」
- サナエ 「3地区はそれぞれ特徴があり、いろいろ調べてみるとおもしろそうだね」

問4 サナエさんたちは、日南市の産業について調査することにした。日南市はかつお一本釣り漁業が盛んで、^{おびすぎ} 飢肥杉とよばれるスギの産地でもある。そこで、サナエさんたちは、漁業を中心とした第1次産業を調査のテーマとし、次の資料1をもとにレポートを作成するためのメモを記した。後の【メモ】中の下線部①～④のうちから、適当でないものを一つ選べ。 8



【メモ】

- ・市内総生産に占める水産業の割合は、①日南市全体の4%ほどである。
- ・農業と水産業の市内総生産に対する貢献度は同じくらいであるが、②就業者1人当たりの貢献度は水産業のほうが大きい。
- ・農業就業者は漁業就業者よりも多いが、③60歳未満の就業者では、農業よりも漁業に従事する人が多い。
- ・日南市の漁業は近海での漁業が中心であり、日南市の総漁獲量は、④かつお一本釣りの漁獲量の変化の影響を大きく受けている。

(下書き用紙)

地理総合，地理探究の試験問題は次に続く。

sample

- ① 地域別の輸出量では、中南アメリカ、アジアの順に多いが、ヨーロッパには輸入したコーヒー豆を再輸出している国もみられる。
- ② 輸出量上位3か国には、世界で主に消費されているアラビカ種コーヒーの栽培起源地(原産地)が位置する国が含まれる。
- ③ 地域別の輸入量では、ヨーロッパ、北アメリカ、アジアの順に多く、輸入国は北半球に大きく偏っている。
- ④ 輸入量上位のアメリカ合衆国やヨーロッパの国々には、コーヒーチェーンがあり、世界展開をしている企業もみられる。

sample

問2 次の図2は、砂糖の生産量上位国と、このうちの上位2か国であるインドとブラジルのサトウキビの生産量の推移を示したものであり、アとイはインドとブラジルのいずれかである。また、後の文章AとBは、インドとブラジルのいずれかのサトウキビの利用の事例について述べたものである。インドに当てはまる図2中の記号と文章の記号との組合せとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 16

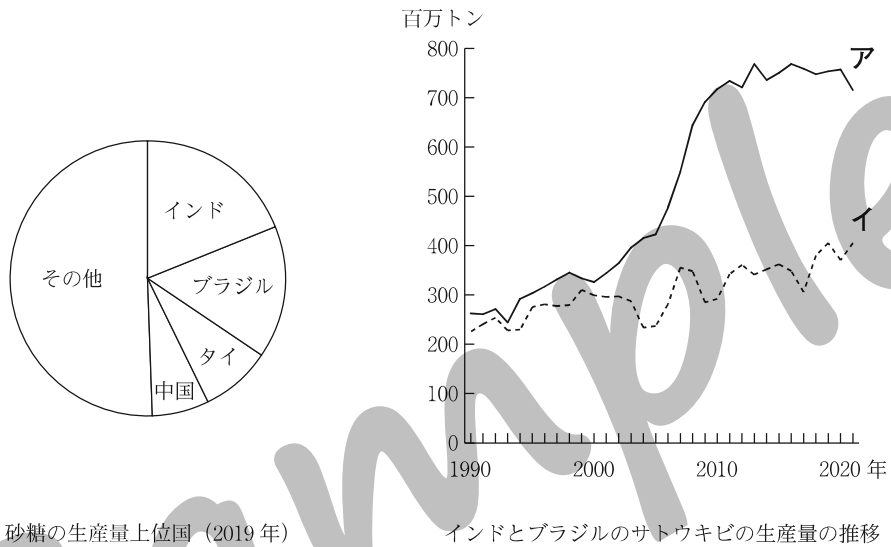
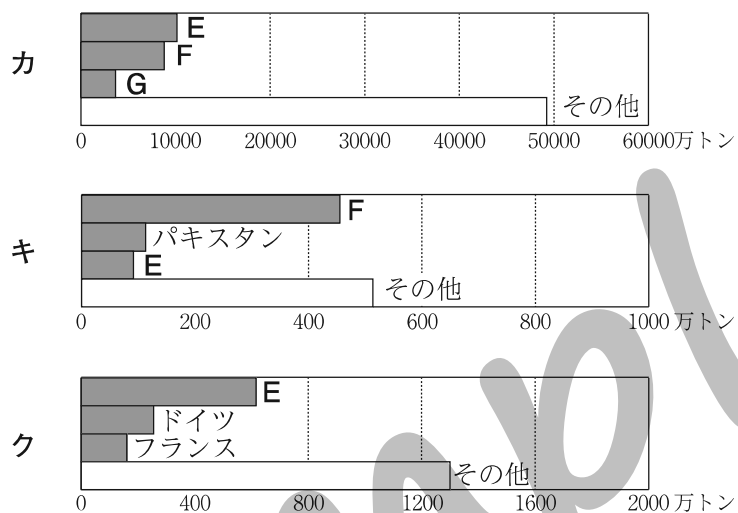


図2

- A 砂糖の原産地であるとされ、伝統的に搾りかすは肥料や燃料に利用されてきた。近年は搾りかすを燃焼させて得られる熱を利用して、各地の製糖工場の周辺に電力や熱を供給する施設も増加している。
- B 第二次世界大戦以前からバイオエタノールの原料としても用いられてきた。近年建設された工場は、砂糖とバイオエタノールの市場価格によってどちらを生産するか調整が可能なものが増加している。

	①	②	③	④
図2	ア	ア	イ	イ
文章	A	B	A	B

問3 次の図3は、牛乳、バター、チーズの世界生産量の上位3か国の生産量を示したものであり、図3中のカ〜クは、牛乳、バター、チーズのいずれか、E〜Gは、アメリカ合衆国、インド、ブラジルのいずれかである。牛乳とアメリカ合衆国との正しい組合せを、後の①〜⑨のうちから一つ選べ。 17



統計年次は、牛乳が2020年、バターとチーズが2019年。FAOSTATにより作成。

図3

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
牛乳	カ	カ	カ	キ	キ	キ	ク	ク	ク
アメリカ合衆国	E	F	G	E	F	G	E	F	G

問4 次の表1は、世界のいくつかの国における再生可能エネルギーによる発電量を示したものであり、サ～スは、アメリカ合衆国、中国、ブラジルのいずれか、a～cは、バイオ燃料、風力、太陽光のいずれかである。中国と風力との正しい組合せを、後の①～⑨のうちから一つ選べ。 18

表1

(単位：GWh)

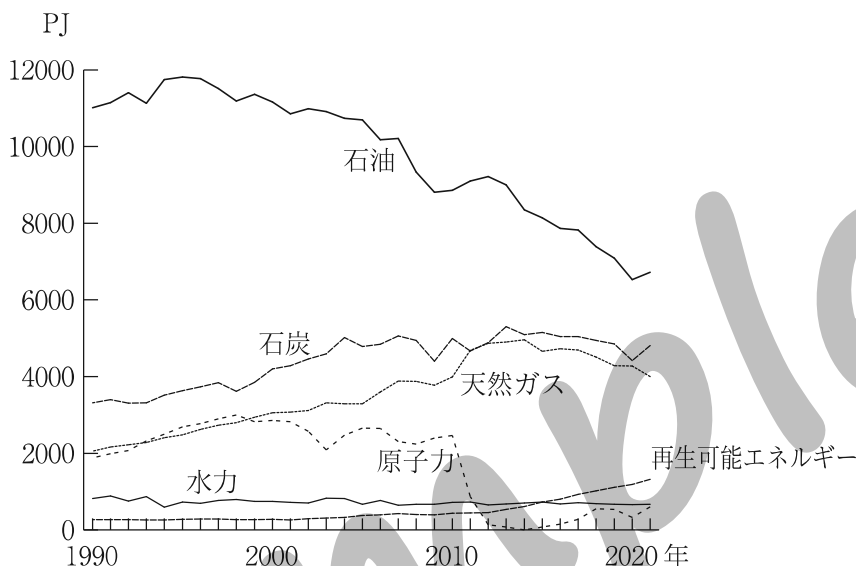
	a	b	c	水力
サ	132,600	466,474	260,500	1,355,209
シ	52,480	384,237	146,249	282,824
ス	58,742	57,051	10,750	396,327
ドイツ	44,795	113,848	49,992	24,573

統計年次は、2020年と2021年のいずれか。

IEAの資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
中国	サ	サ	サ	シ	シ	シ	ス	ス	ス
風力	a	b	c	a	b	c	a	b	c

問5 次の図4は、日本における一次エネルギー供給のうち、石炭、石油、天然ガス、水力、原子力、再生可能エネルギーの推移を示したものである。図4に関することがらについて述べた文章中の下線部①～④のうちから、**適当でないもの**を一つ選べ。 19

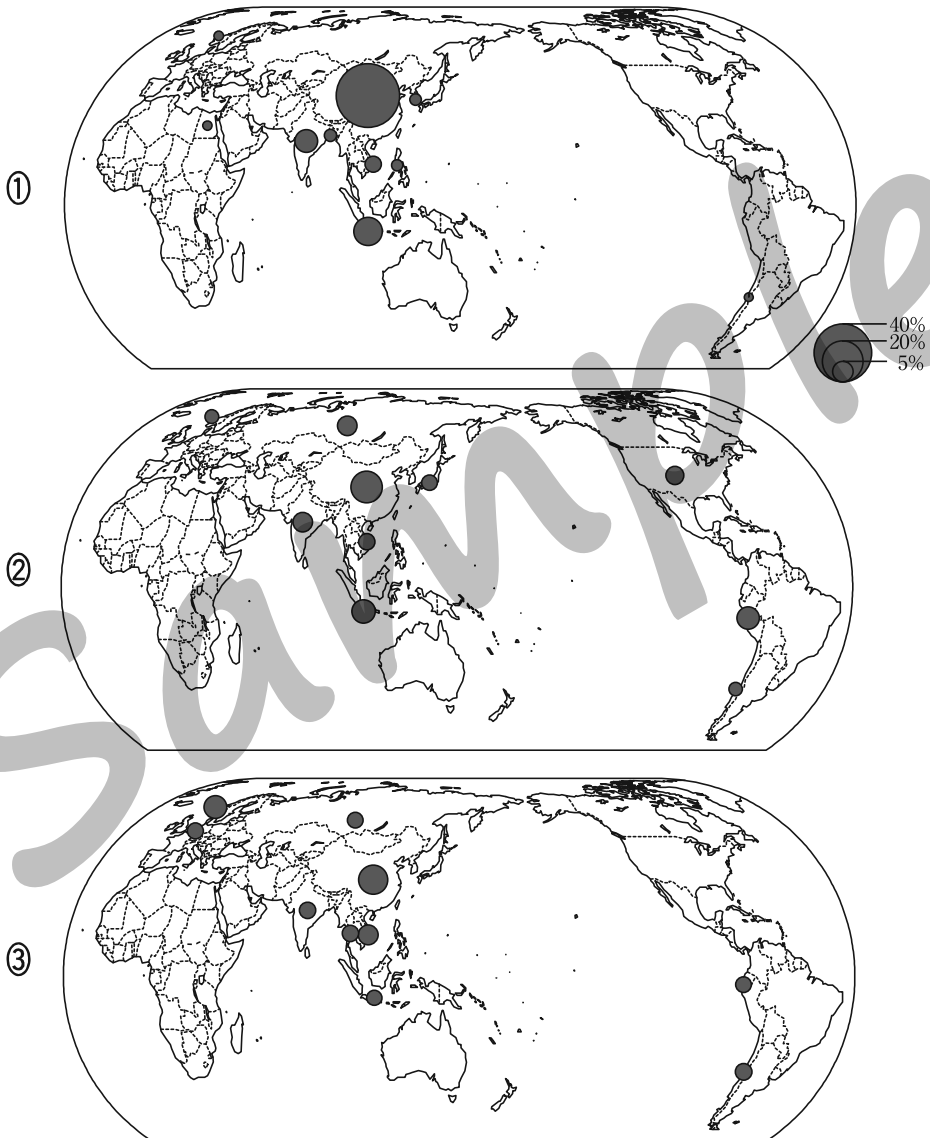


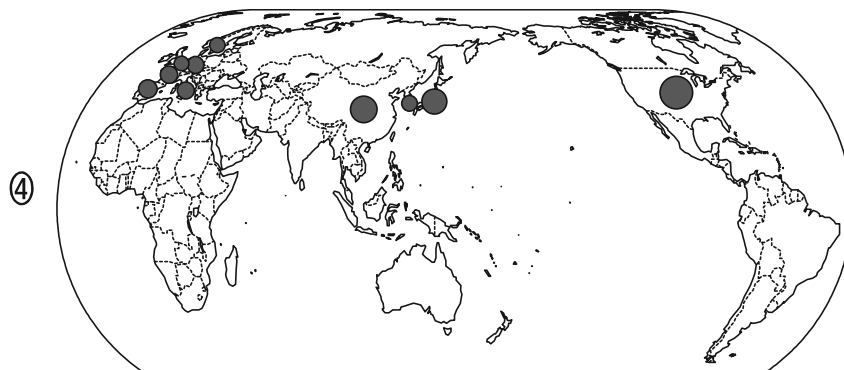
単位のPJはペタジュール＝千兆ジュール。
資源エネルギー庁の資料により作成。

図4

日本の一次エネルギー供給構成では、①ガソリンや軽油、石油化学工業で使用されるナフサなどに精製される石油の割合が高かったが、1990年代のバブル経済の崩壊後の景気の後退などにより、供給量全体が停滞するなかで、②石炭の見直しや、クリーンエネルギーとしての天然ガスの利用が増加し、石油の割合は低下してきた。2000年代に入ると景気の冷え込みは鮮明となり、一次エネルギー供給量全体も減少するようになった。また、2011年には、東北地方太平洋沖地震と津波による被害を受けて、全国の原子力発電所の稼働が停止され、③石炭火力発電所の再稼働や天然ガス火力発電所の増強が行われたため、石炭や天然ガスの供給量が増加した。近年は、東北地方太平洋沖地震後の政府のエネルギー政策の見直しにより、④地熱発電の新たな施設の建設が進んだため、再生可能エネルギーの割合は上昇傾向にあり、一次エネルギー供給構成において、水力や原子力を上回っている。

問6 次の図5中の①～④は、漁業生産量、養殖業生産量、水産物輸出額、水産物輸入額のいずれかについて、上位10か国までの国・地域とそれらが世界全体に占める割合を示したものである。養殖業生産量に該当するものを、図5中の①～④のうちから一つ選べ。 20





統計年次は、漁業生産量、養殖業生産量が2021年、水産物輸出額・輸入額が2020年。
『世界国勢図会』により作成。

図5

sample

2027
共通テスト
直前対策問題集

第2回

地理総合，地理探究

sample

【解答・採点基準】

(60分 100点満点)

問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問 (13)	問1	1	①	4	
	問2	2	①	3	
	問3	3	④	3	
	問4	4	③	3	
第1問 自己採点小計					
第2問 (12)	問1	5	③	3	
	問2	6	④	3	
	問3	7	③	3	
	問4	8	③	3	
第2問 自己採点小計					
第3問 (20)	問1	9	④	3	
	問2	10	④	4	
	問3	11	③	3	
	問4	12	③	4	
	問5	13	⑤	3	
	問6	14	③	3	
第3問 自己採点小計					

問題番号 (配点)	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第4問 (21)	問1	15	②	3	
	問2	16	③	4	
	問3	17	①	3	
	問4	18	②	4	
	問5	19	④	3	
	問6	20	①	4	
第4問 自己採点小計					
第5問 (17)	問1	21	②	4	
	問2	22	②	3	
	問3	23	④	3	
	問4	24	④	3	
	問5	25	②	4	
第5問 自己採点小計					
第6問 (17)	問1	26	③	3	
	問2	27	②	4	
	問3	28	①	3	
	問4	29	⑥	3	
	問5	30	④	4	
第6問 自己採点小計					
自己採点合計					

第2問 宮崎県日南市にちなんの地域調査

問1 5 ③

①正しい。旧図では(東川)という表記のある地域などに桑畑が広がっていたが、新図では桑畑はすべてなくなり、旧図の(東川)という表記のある地域は、主に果樹園になっている。②正しい。旧図では東光寺付近の広渡川(廣渡川)には堤防はなく、川沿いに竹林(笹地)があったが、新図では堤防(土堤)がつくられている。③誤り。新図では旧図にない王子製紙工場があるが、王子製紙工場は広渡川の支流の右岸の氾濫原に立地している。④正しい。旧図の宮崎縣(県)営鉄道の路線は、一部が現在の JR 線に利用されている。使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行5万分の1地形図「飢肥」である。

問2 6 ④

①は古いアーケードのある商店街で、道路も狭い。これは油津駅あぶらつ付近のC地点で撮影したものである。②は広い道路があり、左手には公園、右手には大型建物がある。これはB地点で撮影したもので、大型建物は日南市役所である。③は川沿いの建物や橋が写って

いるからD地点で撮影したものである。④は広い道路に面した商店が均整のとれた町並みを形成している。これはA地点で撮影したものである。A付近は飢肥の城下町で、建物自体は新しいが、城下町の景観にあわせたまちづくりが行われている。

問3 **7** ③

①正しい。人口のグラフから、飢肥と油津の人口の合計は1万人程度であり、1万8千人程度の吾田よりも少ない。②正しい。1960年と1990年の人口集中地区の図を比べると、吾田の人口集中地区は、鉄道に沿う主要道路沿いに飢肥と油津の両方から延びていることがわかる。③誤り。1990年では飢肥と油津の人口はほぼ同じであったが、2020年では油津は飢肥よりも人口が少ない。したがって、油津は飢肥よりも人口減少率が大きい。④正しい。飢肥では、人口が減少した割に、世帯数はあまり減少していない。つまり、世帯は残っているが、世帯の構成員の数が減少したことを示している。その原因は、少子化や世帯の中の若年層が他地域へ流出したことなどである。

問4 **8** ③

①正しい。市内総生産の産業別割合のグラフから、市内総生産に占める第1次産業の割合が約10%で、第1次産業に占める水産業の割合が約40%だから、市内総生産に占める水産業の割合は約4%であるとわかる。②正しい。農業も市内総生産に占める割合は約4%であるが、就業者は漁業よりもかなり多いので、就業者1人当たりの貢献度は水産業のほうが大きい。③誤り。農業と漁業の年齢別従事者数のグラフから、60歳未満の就業者でも漁業よりも農業に従事する人が多いとわかる。④正しい。漁業種類別漁獲量の割合とその推移のグラフから、かつお一本釣りの漁獲量は日南市の漁獲量の約8割を占めており、その漁獲量の増減が全体の漁獲量の増減に影響しているとわかる。

第4問 資源と産業

問1 15 ②

①正しい。コーヒー豆の輸出量の上位国は、ブラジル、ベトナム、コロンビア、ホンジュラス、インドネシア、ドイツの順であり、地域別では中南アメリカが最も多く、次いでアジアが続く。冷涼な気候のヨーロッパではコーヒーの栽培はできないから、ドイツやベルギーなどのヨーロッパの輸出国は、輸入したコーヒー豆をEU諸国などへ再輸出していると考えられる。②誤り。世界で主に消費されているアラビカ種コーヒーの栽培起源地(原産地)はエチオピア南部のカフファ地方である。エチオピアはコーヒー豆輸出量の上位3位以内には入っていない。③正しい。コーヒー豆の輸入量の上位国は、アメリカ合衆国、ドイツ、イタリア、日本、ベルギー、スペインの順であり、輸入国は北半球に偏っている。④正しい。輸入量上位のアメリカ合衆国やヨーロッパの国々には、スターバックスコーヒー(アメリカ合衆国)やイリーコーヒー(イタリア)などのコーヒーチェーンがあり、これらの企業は世界展開していることで知られる(統計年次は2021年)。

問2 16 ③

インドとブラジルの砂糖の生産量は同程度であるが、その原料であるサトウキビの生産量では大きく異なる。サトウキビは砂糖の原料となる以外に、バイオエタノールの原料ともなることからAとIの国名を判定する。インドではサトウキビの多くが砂糖生産に振り向けられるが、ブラジルでは市場価格によってバイオエタノールにも多く振り向けられる。したがって、2000年代に入ってからサトウキビの増産が進んだAは、需要が増大したバイオエタノールの生産量が大幅に増えたブラジルであり、残りのIがインドである。また、文章AとBのうち、Bは第二次世界大戦以前からサトウキビがバイオエタノールの原料として用いられてきたとあるからブラジルで、残りのAがインドである。

問3 17 ①

図3中のカ〜クのうち、生産量が圧倒的に多く、キ・クと比べて世界生産量に占める上位3か国の割合が低いカは、世界各国で消費される牛乳である。残るキとクのうち、ドイツとフランスが上位3か国に入っているクが、ヨーロッパにおいて伝統的に生産量が多いチーズであり、残りのキがバターである。牛乳・乳製品の生産量が多いのは、食生活において乳製品の供給

量が多い欧米諸国とインド・パキスタンであり、人口の多い国では特に生産量が多い。したがって、E～Gのうち、いずれも上位に入っているEはアメリカ合衆国である。インドやパキスタンでは、バターを熱してタンパク質と水分を除去してつくるギーと呼ばれるバターオイルが特に好まれて消費されており、両国がバターの生産量で上位となっている。よって、キのバターの生産量が多いFはインドで、残りのGはブラジルである。

問4 **18** ②

表1中のa～cと水力の合計の発電量が多いサは、世界最大規模の人口を擁し、近年の経済発展が著しい中国である。シとスのうち、水力の発電量が多いスがブラジルで、残りのシがアメリカ合衆国である。a～cのうち、bはドイツのほか、中国(サ)でもアメリカ合衆国(シ)でも最も発電量が多いので風力である。aはブラジル(ス)では発電量が多いが、他の国では発電量が少ない。ブラジルはバイオエタノールなどの液体バイオ燃料のほか、薪炭材などの固形バイオ燃料の利用も多いことから、aはバイオ燃料となる。残りのcが太陽光である。

問5 **19** ④

①正しい。一次エネルギー供給構成では近年の割合が低下しているとはいえ、一貫して石油の割合が最も高い。これは、石油がガソリン・軽油などの燃料や石油化学工業原料として幅広く国内で消費されているからである。②正しい。2000年代に入って中国やインドなどの新興国の工業化による経済発展によってエネルギー価格が上昇する中で、安価で埋蔵量も多い石炭の見直しが進むと同時に、化石燃料の中では燃焼時に二酸化炭素の排出量が少ないクリーンエネルギーである天然ガスの供給も増加した。③正しい。2011年の東日本大震災後、津波により壊滅的な打撃を受けた福島第一原発だけでなく、日本国内の原子力発電所はすべて稼働停止となった。これを受けて、石炭火力発電所の再稼働や、天然ガス火力発電所の増強などが進められた。④誤り。震災後の政府のエネルギー政策の転換により、一次エネルギー供給において再生可能エネルギーの割合は上昇したが、それに寄与したのは太陽光発電施設の新設であり、地熱発電の設備容量はほとんど増加していない。

問6 **20** ①

日本は漁業生産量が多い一方で、水産物の輸入額も多いため、日本が上位となっている②と④は、漁業生

産量と水産物輸入額のいずれかである。②はペルーでも多くなっていることから漁業生産量であり、④は先進国のヨーロッパ諸国が上位となっていることから水産物輸入額である。①と③のうち、①は中国の割合がきわめて大きく、東南アジアや南アジアの国が上位となっていることから、養殖業生産量である。中国は漁業生産量、養殖業生産量とも世界第1位で、養殖業生産量は漁業生産量よりも多い。また、東南アジアや南アジアでは、先進国向けのエビの養殖がさかんで、養殖業生産量が多い。残りの③は水産物輸出額である。